



# みちくさ

2017. 1. 25 No. 38

## 珈琲の香り



校長室の窓を開けていると、時々すごく香ばしい匂いが漂ってくるがあります。最初は何の香りなのかわかりませんでした。学校の南側に珈琲屋さんがあることに気づきました。おそらく焙煎している香りなのでしょうね。今は冬ですから窓は開けていないのですが、季節のいいときには、時々香りをタダで楽しんでおりました。

自宅でも朝と晩は珈琲を入れて飲んでます。朝は忙しいのでペーパードリッパーで簡単に淹れてしまいましたが、夜はネルドリッパーでじっくりと香りを楽しみながら淹れるようにしています。

隣家の奥様が、昔に喫茶店でバイトをしていて、珈琲を入れるのがすごく上手なのだということを知りました。荒くひいた豆に少量のお湯を垂らし、豆に空気が染み渡るようにたっぷりと膨らませて時間をかけて淹れるのだとか。その際、少しでも抽出した液が下にこぼれてしまったら、入れ方としては失敗なので、全部捨ててしまうのだそうです。豆の種類や煎り具合によって、お湯の温度にも違いがあるそうです。本格的に凝り出すときりがないので、面倒くさがりな自分は、適当なところで妥協しています。

私は立町学区にあるお店や長町南学区にあるお店から豆を購入していますが、時々、香りをタダで楽しんでいる学区のお店からも買っています。特に、地域の名前がついたブレンドの豆がお気に入りです。

## 教え子が訪ねてきました

前回、学校にはたくさんのお客様がいらっしゃるということをお話しました。今回の来校者は私の教え子で、平成4年に卒業した子どもです。現在36歳、コンピュータ関連の会社に勤めていて、市の生涯学習課でやっている「楽学プロジェクト」に社会貢献活動の一環としてかかわったそうです。その際、担当の校長先生から母校の校長に私がまた就いていることを聞き、懐かしく訪ねてきたのでした。1時間半ばかり思い出話に花が咲きました。

彼は中学の時に引っ越しているせいで、同級生からの連絡が届かないのかもしれないと言っていました。最近流行のSNSでは、時々この名前は同級生かなと気づくこともあるそうです。昔の卒業アルバムには子どもの住所なども入っていましたが、今は個々のプライバシーは掲載していません。その分、SNSという新しい手段がありますので、昔の友人とも繋がりがやすくなっているのかも知れません。彼は、思い切って同級生に声を掛けてみようかなと話していました。当時はどちらかというとな消極的な性格だったと記憶していましたが、これまでの歩みと自信が、今の前向きさにつながっているのかなと感じ入っていました。



## 小中図画工作美術合同展を鑑賞してきました

この時期、毎年メディアテークを会場に、表記の展示会が開催されます。土曜日の午後に出かけてきました。

入口を入ったところにいきなりかわいい工作があり、猫好きの私は思わず歓声をあげそうになりました。4年生の山本千咲子さんの「ネコのブランコ」と題した作品です。割り箸を上下に引っ張ると、ネコの人形が左右にかわいく揺れるそうです。牛乳パックを利用して作った作品でした。

1年生の齊藤梨杏さんは首の長いキリンを工作で作りました。キリンの体の模様まで上手に表現していました。2年生の齊藤由凜子さんは画用紙を自由に切っていたらゴジラの背中を発想して、ゴジラ

を中心に動物を描きました。たくさんの動物が集まった面白さを表現していました。3年生の舟岡陽咲さんは、マグカップのロケットに乗って旅する絵を描きました。ロケットが画用紙からはみ出るくらい、自由な表現で描けていました。5年生の佐藤美南さんは、空を散歩しているような不思議なイメージを絵に表していました。

このように、市内の小中学生の力作が集まっています。発想する楽しさ、ていねいに仕上げる喜びをどの作品にも感じることができました。

## 片平まちづくり会主催の「餅つき大会」無事終わる

片平の冬の風物詩にもなってきた餅つき大会が無事に終了しました。関係した体育振興会（立町の体育振興会にもご協力いただいたそうです）やPTA、地域の皆様には大変お世話になりました。第3回目を迎えたこの催し、今年度は準備を少し早くしたこともあり、さらにお父さんボランティアの参加も得られたことで、進行がかなりスムーズに進みました。なんといっても餅つきは力仕事なので、本当に助かりました。



あんこ、きな粉、納豆、海苔などのお餅を、子どもも大人も美味しそうにほおぼっていました。特に外で作っていた大鍋のお雑煮は人気で、もう少し食べたいなと感じさせるいい味付けでした。心配されていた感染性胃腸炎やインフルエンザの蔓延なく、また格別に寒いという気候でもなかったことも幸いでした。みんなが楽しめた素晴らしいイベントになりました。

ここまでイベントを行うため、関係の皆様には4回、学校に足を運んでいただき、打ち合わせを行いました。また、前日まで食材を買い学校に持ち込んで下準備をするなど、見えないところで働いてくださった皆様の存在を忘れてはいけません。手弁当でここまでやっていただいているのは、片平の子どもたちのためという思いがあってのことです。皆様の思いに応えるためにも、学校は地域を支えていく次の世代である子どもたちを、しっかりと育てていきたいと思ひます。